

ICTを活用した防災・減災シンポジウム 南海トラフ巨大地震に備えて

【パネルディスカッション】

# 災害情報の共有化に向けて

(共有が可能な情報、そのための仕組みについて)

## 空撮情報の共有方法(提案)について

2012年12月6日

 **朝日航洋株式会社**  
AERO ASAHI CORPORATION  
西日本航空支社 支社長 庄島 広孝

# 「事例報告」の今後の課題に関連して

先述の「事例報告」にて…

- 復旧の優先度、復旧手段の検討には正確な情報がまず必要！
- 平時に使用できないシステムや機材は災害時には役に立たない！
- そのためには、平時から運用できるシステムとその運用の確立が必要
- 必要とされる三次元情報を短時間且つ広範囲に情報収集する手段に航空機の活用は最も有効

# 情報収集目的の専用ヘリコプターの確保と活用(案)

## 【提案事項】

- ・年間を通じて可動できる小型ヘリコプターの確保と平時の運用
- ・総合窓口は、公的な性格をもった機関
- ・共同運用形式
- ・平常時の活用案



視察や調査飛行、移動利用、広報飛行、防災訓練活用、  
物資輸送など日常業務を通じて活用

- ・災害発生時には、速やかに被災状況を映像収録して必要とする各機関に配信するシステムを構築



(参考紹介)

## 通信途絶時の情報伝達の手法

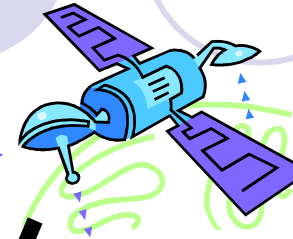
- 災害発生直後、通信手段が一次途絶の際
- 「QRコード」による情報伝達手段を活用
- 上空より撮影されたQRコードを読み取ることで地上からのメッセージを把握できる。

# (参考紹介) QRコード利用プランの基本概念

ヘリ、固定翼、衛星等



衛星電話(例:イリジウム)



地上サーバ経由(または衛星電話から直接)  
配信対象先へメール送信

デジタル動画撮影

罹災者、企業



地上サーバ



メール配信

QRコード内に指定されたメールアドレス(複数可)  
に、QRコードの内容をほぼリアルタイム配信。  
(サーバ経由の場合は高い秘匿性あり)

メール配信先

- : 罹災者(企業)の血縁者(関連事業所)等
- : 関連の防災機関等